



# DANRYU



世界と鹿児島交流情報「暖流」NO53/March 2026

発行：(公財) 鹿児島県国際交流協会

## 『林芳蔚国楽祭(韓国公演)』

鹿児島県国際交流協会と韓国・光州広域市との共催、林芳蔚(イムバンウル)国楽振興会の主管による韓国の伝統音楽公演を開催しました。韓国国内で国楽としては著名なコンクールである「林芳蔚国楽祭」の今年度受賞者を含む歴代受賞者が公演を披露、多様なプログラムにより韓国の伝統音楽である「国楽」を歌や踊り、楽器演奏で楽しむことができました。始まりは、客席の方からグッペビダンによる風物パングツから韓国の伝統楽器や象毛(さんも)回しなどでスタートの舞台を熱く盛り上げ、韓国の伝統ソリ(音)というパンソリ、人々の安全と平和を願う太平踊、力強いリズムで迫力満点の器楽散調、韓国の伝統的な琴である伽耶琴を弾きながら歌う伽耶琴併唱では、普段の韓国語あいづちである「잘다!」を日本語の「よし!」に変え、出演者と観客と一緒にやり取りができる舞台が見られました。

続いて民族の平和と繁栄を願う華麗な扇子踊りは、華麗な扇子や韓国の伝統服で注目を浴び、二人以上で披露するパンソリ立体唱公演の後、ソゴ舞と南道民謡で全出演者が舞台上がり素敵なフィナーレを披露しました。今回の公演は、多くの鹿児島県民の皆様、今回公演のイベント運営補助ボランティア5名を含めた林芳蔚国楽振興会の事務局の他多くの皆様のおかげです。

## 『鹿児島・全北特別自治道文化交流事業』

当協会では、韓国・全北特別自治道(以下「全北」)の全北国際協力振興院の協力を得て、令和2年度から隔年で交互にお互いの地の文化・歴史や自然を学ぶ講座として開催しています。今年度は、全北を訪問し、9月13日(土)に全北特別自治道民の35名と日本語を学んでいる全州大学の11名の大学生を対象に、薩摩切子のパーツを利用したキャンドルホルダー作り体験をしてもらいました。鹿児島については、鹿児島の概要から、観光地、グルメ、祭りなど観光の紹介を中心とした鹿児島を紹介し、薩摩切子について紹介し体験を行いました。薩摩切子を作る際に使えない切子のパーツをアップサイクリングし、今回



の体験では限られた時間でしたが、参加者それぞれのアイデアとセンスが見られるキャンドルホルダーがつくられました。また、参加者からは「良い経験になった」、「楽しい体験であった」、「ローカル関連体験で楽しかったし勉強になりました！」などと好評でした。

### 『鹿児島県青少年国際協力体験事業』

本事業は鹿児島県の青少年を開発途上国に派遣し、ホームステイや学校等での交流を通して相互理解を深めるとともに、現地で途上国の国づくりに貢献している青年海外協力隊の活動現場の視察等をとおして、国際協力に対する理解を深め、国際性豊かな人材を育成することを目的に、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県 OB 会、(公財)鹿児島県国際交流協会の三者で実施しております。本年度第



32回目を数え、これまで延べ410 名の中高生をアジア 7 カ国に派遣してきました。今年度は、令和7年7月19日から26日までの8日間、県内各地から選抜された19名の中高生を本事業 7 回目の訪問となるベトナム社会主義共和国に派遣しました。農村部でのホームステイでは、日本とは異なる生活環境や文化・言葉の違いに戸惑いながらも、現地の方々とのコミュニケーションを楽しみ、人々の温かさ、心の豊かさに触れることができました。また、派遣期間中に訪れた協力隊員の活動視察では、異文化を受け入れ、その国に合った支援の在り方の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。「ニュースや教科書でしか見られなかったが、リアルな国際協力について学ぶことができ、国際交流、国際協力についての考え方が変わる充実した 7 泊 8 日だった。」といった感想も見られ、開発途上国で活躍する協力隊員の姿は、生徒一人ひとりの心に深く刻まれたようでした。

### 『外国人による日本語スピーチコンテスト』

鹿児島で世界を語ろう！第31回外国人による日本語スピーチコンテスト14カ国・地域41名の県内在住の外国の方が予選に出場し、その中から10名(9カ国)が令和8年2月7日にカクイクス交流センター県民ホー



ルで行われた本選で発表しました。最優秀賞は、『日本人は一目でわかる』というタイトルでスピーチをしたネパール出身で神村学園専修学校のブ

ッタ シタ クマリさんが受賞しました。きれいな民族衣装の姿でスピーチを披露し、194名の聴衆を惹きつけていました。今回も多様な鹿児島での生活や経験、自分の思い等を堂々と日本語で語る出場者の皆さんの姿は、これまで日本で頑張ってきた様子を如実に物語っているようで、聴衆の皆さんも心を掴まれていたようでした。

**『多文化共生社会促進事業・多文化共生の地域づくり事業』**

地域の在留外国人をサポートする人材を育成するため、県内の自治会やその他団体等からの依頼に基づき、「やさしい日本語」や海外の文化紹介、多文化共生の取組事例など多文化共生に係る講師を派遣しました。講師派遣に伴う謝金・旅費等を負担し、依頼があれば講師依頼も行いました。



<多文化共生社会促進事業> 令和7年度実績

○「やさしい日本語」講師派遣:7か所

やさしい日本語を学び、在住外国人とのコミュニケーションの向上を図りました。

○海外文化紹介講師派遣:5か所

ベトナム国籍の講師を派遣し文化を学ぶことで、在住外国人との相互理解を図りました。

○多文化共生アドバイザー派遣:2か所

多文化共生や日本語教育等の課題及び今後の事業展開等についての助言・支援等を行う講師を派遣し、多文化共生社会の推進を図りました。日本人と外国人が共生する地域づくりを推進するため、地域住民の多文化共生の意識醸成を図り、日本人と外国人が共に学ぶワークショップ等をモデル的に実施する市町村の取組を支援しました。



<多文化共生の地域づくり事業> 令和7年度実績

○さつま町「多文化共生講座」事例発表, 基調講演, 「やさしい日本語」

講座, 外国人のための防災情報, 多文化共生ワークショップ  
○鹿屋市「札元1丁目多文化共生のまちづくり」, 「ゴミ分別について学ぼう」 「防災について学ぼう」 「もちつき大会」

## 『外国人住民からの相談対応研修』

日常業務において外国人住民からの相談に対応している担当者のスキル向上を図るため、外国人住民からの相談の特徴と支援のポイント。行政窓口などでの相談の聞き取り方。及び情報の伝え方のコツ等について学び、外国人住民との効率的な相談手法を習得するための研修を実施しました。

○日時:令和7年12月12日(金)13:30~16:00

○場所:カクイクス交流センター(「かごしま県民交流センター」)大研修室

○講師:矢野花織氏

(公財)北九州国際交流協会多文化共生

ワンストップインフォメーションセンター長

○関係機関の取組み紹介:坂爪佳奈氏

(福岡出入国在留管理局統括審査官)

○参加者の感想(一部抜粋)

・「日常の窓口における外国人対応はもちろん、日本人の相談者との対応にも活用できる内容であった。」

・「今回の会を通して改めて相談員としての役割とモチベーションを再確認することができた。」

・「外国の方の支援についてハードルの高さを感じていましたが、本日に講話を受講して、言語の違いによるハードルについては下がった。」

・「外国人の相談対応されている県内の機関の皆さんと交流が取れて、どんな支援をしているのか、話ができてためになった。」

## 『日本語・日本理解講座』



鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の習慣などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を令和7年5月から令和8年2月まで全60回(水曜昼間クラス30回, 木曜夜間クラス30回)実施し、8月には鹿児島県の委託事業としてオンラインによる日本語講座実施しました。対面の講座では、少人数に分かれ、普段の生活で目にする標識を使って漢字を学んだり、学んだ文法を使って寸劇をしたり、他の国から来た受講生に、ご自身の国について紹介をするスピーチをしたりと様々な側面から日本語を学びました。オンラインの講座では、仕事や家庭の都合で対面の教室に参加できない方や、近くに日本語教室のな

いがしてくださり対面の講座とは一味違った講座になりました。受講生からは、「実用的で生徒に関連のあるトピックを選んでくれたので便利な表現を学ぶことができた」、「もっと勉強して日本語を話せるようになりたい」などの意見をいただき、日本語学習に意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。

### 『災害時外国人支援ボランティア養成講座』

本県では、大規模災害発生時に言語面の困難から要配慮者となり得る外国人を支援するボランティアの養成を目的として、オンライン(令和7年12月)及び対面(令和8年1月)で講座を開催しました。オンライン講座では、2016年熊本地震で現地多言語支援センターに従事した江戸川区多文化共生センターの山浦育子氏を、対面講座では、東日本大震災時に災害多言語支援センター長を務めた土井佳彦氏を講師に迎えました。両講座では、災害時における外国人の課題や情報提供のあり方、「やさしい日本語」に関する講義のほか、オンラインでは通訳・翻訳ロールプレイ演習(英語・中国語)、対面では通訳・翻訳アプリを活用した避難所対応のロールプレイを実施しました。

参加者からは、「外国人が災害時に直面する課題や母語で情報を伝える重要性を再認識した」、「日本人と外国人では災害時の出発点異なることを理解できた」、「平時から翻訳アプリややさしい日本語を活用した備えが重要であると学んだ」、といった感想が寄せられ、本講座は、災害時外国人支援への理解を深め、今後の災害対応に生かされる有意義な学びの場となりました。



### 『地域日本語教育ネットワーク会議』

外国人が住みやすい地域づくりの促進を図るため、県内の地域レベルで行われている日本語教室の講師等を対象に、指導技術の向上や日本語教室の運営の一助として、地域日本語教育ネットワーク会議を令和7年12月に開催しました。講師に(公財)北九州国際交流協会総括コーディネーターの矢野花織先生をお招きし、「日本語学習支援から始める多文化共生」と題してご講演いただきました。多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きてゆくこと」であり、外国人は「ゲスト」から「社会の一員」へと変遷しており、日本で暮らす様々な外国人家族の紹介も交え、多文化共生社会実現には、日本社会や地域共生社会を外国人とともに



支えて行く必要があると述べられました。

### 『ワールドトークサロン』

ワールドトークサロンは、県国際交流員のモラン・ベンジャミンさん(英国)、キム・ジュヒさん(韓国)とチン・ウンさん(中国)の3名を講師に迎え、毎月それぞれ4回程度の講座を開催しています。各講座では、講師が自国の文化や生活、社会の特徴などをテーマに取り上げ、母国語と日本語を交えながら、参加者と語り合います。若い講師たちならではの視点を生かし、最新の動画や音楽を取り入れた工夫ある内容となっていることから、参加者からは「楽しく学べる」「異文化理解が深まる」と好評を得ています。そのため、毎回多くの方がリピーターとして参加する人気講座となっており、国際理解の場として定着しています。



### 『ベトナム理解講座』



ベトナム語入門講座は、言語学習を通してベトナムの文化や習慣を紹介し、県内のベトナム人と日本人との交流の機会を創出することを目的として開催しています。講座は前期と後期に分かれており、前期は全10回(5月11日～7月20日)、後期は全6回(10月12日～11月30日)実施しました。さらに、特別企画として「ベトナム料理教室」(11月23日)と「ベトナムの物語を読もう！」(2月28日)の2回を設けました。講座では、まずベトナム語のつづり方を学ぶことから始め、各回のテーマに沿った単語や簡単な表現を学習しました。その後、講師や他の受講生との会話練習を行い、最後に「知っている？」のコーナーでは、講

師がベトナムの生活や文化、観光について紹介しました。前期の最終回ではベトナムに関するクイズ大会を行い、後期の最終回では「知っている？」のコーナーにベトナム南部出身のゲストを招き、メコンデルタの生活や水上マーケットについて紹介していただきました。

### 『協力隊OBと留学生が先生事業』

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊OB会と当協会の3団体で実施しているこの事業は、年間約40校の小・中学校に青年海外協力隊として活動していた帰国隊員や県内に在住する留学生などの外国人を講師として派遣しています。この事業は、協力隊OBによる海外での活動体験の話や外国人



との交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。写真や動画を使って体験や

国を紹介したり、民族衣装を実際に着てみたりと、教科書だけでは知り得ない事柄を紹介しました。今年度実施した 40 校の 1870 名の児童・生徒からは「他の国についてもっと知りたくなった」「知らないことが沢山あった」「大人になったら協力隊として海外で活躍したい」などの感想をいただきました。この事業が、国際理解教育としてだけでなく、自分の将来について考える良い機会となっているようです。

### 『JICA 事業』

#### 【JICA って?】

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う機関で途上国の課題解決や経済・社会発展を支援し、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンに技術協力、有償・無償資金協力を中心に国際協力を行っています。

#### 【JICA 海外協力隊】

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき、青年海外協力隊等として派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としています。これまで全国から 5 万 7 千人以上の方が派遣されており、鹿児島県からも 1000 人以上の方が世界へと飛び立っています。



#### 【国際協力を仕事にしたい！そんな方へ！】

国際キャリア総合サイト「PARTNER」では、国際協力・国際キャリアに関する情報が掲載されています。さらなるキャリアアップを目指したい方、グローバルに働きたい方、ぜひ一度ご覧ください。

#### <問い合わせ先>

鹿児島県国際交流協会には JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。  
お気軽にお問合せ下さい。(オンライン対応可)

TEL:090-7167-4238 ,E-mail:jicadpd-deskkagoshimaken@jica.go.jp

## 『外国人総合相談窓口』

外国人総合相談窓口では、県内にお住まいの外国人の方々が、在留資格や雇用、医療、福祉、出産・子育て、子供の教育など生活に関する適切な情報や相談場所に迅速に到達できるよう、多言語で情報提供や相談を行っています。窓口では、日本人とベトナム人の相談員が対応しています。

○場 所:カクイックス交流センター

(かごしま県民交流センター)1F

○時 間:火曜日～日曜日, 9時～17時。

月曜日が祝日の場合は開所,

翌平日が休み。年末年始

(12月29日～1月3日)を除く。

○相談方法:面接, 電話, メール,

Facebook メッセンジャー TEL:070-7662-4541,

Email:kiasoudan@gmail.com

○相談窓口 Facebook,<https://www.facebook.com/Kiasooudan>

○対応言語:24 言語 日本語, 英語, ベトナム語は相談窓口で対応します。その他の言語は, 多言語コールセンターを活用します。

○相談内容:在留資格, 日本語の学習, 雇用・労働, 医療, 税金, 住宅, 結婚, 離婚, DV, 交通・運転免許など日常生活で困ったこと

